

# 防火クラブ紹介



砂子原上自治会  
防火クラブ  
会長 渡部 弘明

私たち砂子原上自治会防火クラブは、雲南市の北部、JR木次線沿いに位置し、戸数22戸、人口約90人の小規模ではありますが、地域の主要な農産物であるお茶の畑に囲まれた自然豊かな自治会の防火クラブです。

当防火クラブは平成10年2月に結成しました。当初は婦人防火クラブとしての結成を目指していましたが、地域における防火への取り組みは、女性だけに任せるのではなく、地元消防団などと連携を図りながら地域が一体となって取り組むことが重要であるとの認識から、自治会防火クラブとして発足しました。

以来、砂子原自治連合会(当自治会や他の2自治会で組織)が毎年主催する防火講習会に参加し防火意識の高揚に努めたり、各種の防火活動に取り組んで参りました。

平成21年度の主な活動は、砂子原自治連合会が開催した防火講習会(雲南消防署において実施)に参加し、庁舎見学、消防車両見学、避難訓練、消防署員の訓練の見学などを体験しました。また、平成23年5月末までに設置が義務付けられている住宅用火災警報器について、共同購入事業等を行い設置率の向上に向けた取り組みも行いました。

今後は、火災予防や防火意識の高揚への取り組みはもとより、複雑・多様化している災害の中で、災害弱者といわれるお年寄りや障がい者の方々に対し、災害時には地域全体が支援していく取り組みも必要であると考えています。

# 子供のライター使用にご注意!!

4月中に北海道と宮城県で、幼い子供を乗せた車両火災が相次ぎ、尊い命を失うという痛ましい結果となりました。出火原因は車両に残されていた電子式ライターで、子供が火遊びをしたことによるものと考えられます。

消費者庁の調査の結果、子供の火遊びによる火災のうち、ライターが起因であるものが半数以上にのぼり、かつ5歳未満において死傷者発生率が高いことが確認されました。また、ライターの種類としては使い捨て式のライターが9割を占めると報告されました。

身近にある便利なライターですが、火の怖さを理解できていない子供たちが使用すれば、命を奪う凶器へと変貌してまいります。



- 子供の手の届くところにライターを置かない。
- 子供にライターを触らせない。
- 子供がライターで火遊びをしているのを見かけたら、すぐに注意をしてやめさせる。
- 理解できる年齢になったら、子供に火の怖さを教える。

# 平成22年度 全国統一防火標語

## 「消したかな」 あなたを守る 合言葉

雲南消防本部管内では今年に入り9件の火災が発生しています(5月10日現在)。いずれの火災もちょっとした不注意によるものです。あなたの大切な命や財産を守るために、常に「消したかな」を心に留めながら火の取扱いをしてください。



# 大東小学校少年消防クラブ



雲南市大東町の大東小学校少年消防クラブ(会長 鳥谷 和生校長、クラブ員241名)が、「優良な少年消防クラブ」として全国少年消防クラブ運営指導協議会(会長 河野 栄消防庁長官)表彰を受賞されました。

同クラブは平成元年に結成以来、火災、地震などを想定した避難訓練、消火訓練や、消防本部が実施している少年消防クラブ員研修会への参加など、日頃から防火・防災に積極的に取り組んでこられた功績が認められたものです。

3月26日、総務省消防庁で行われた表彰式には、同クラブを代表して菅田那樹君が出席し表彰を受けました。



### 鳥谷 和生 校長のコメント

このような荣誉ある賞を本校クラブが受賞し大変うれしく思います。これからも子供たちが防火・防災について学べる機会をたくさん作り、積極的な活動を展開していきたいと思います。

### 菅田 那樹 君のコメント

全国から多くのクラブ員が参加し、張り詰めた空気の中での表彰式で少し緊張しましたが、大東小学校の代表として受賞できたことをとてもうれしく思います。今回の経験や、今後のクラブ活動を将来に生かしたいと思っています。



# 消防職員意見発表中国支部大会で優秀賞

4月28日(水)岡山県岡山市において「平成22年度全国消防職員意見発表中国支部大会」が開催されました。雲南消防本部からは藤原 祐消防副士長が島根県代表として出場し、中国5県の代表10名のうち見事「優秀賞」を受賞しました。藤原副士長は「防火の仕掛け人」と題し、腹話術人形「きゅうちゃん」と共に、火災・災害予防の普及啓発と住宅用火災警報器の設置促進に向けた積極的な広報活動の取り組みについて力強く発表しました。



# (財)救急振興財団から高度な救急救命処置の訓練用資機材寄贈



高度な救急救命処置の訓練用資機材

昨年9月からの7か月間、救急救命九州研修所に中林 直仁消防士長が入校していました。厳しい研修を修了し、3月23日の卒業式では196名の研修生の内、特に成績が優秀であったと認められ、(財)救急振興財団から雲南消防本部へ「高度な救急救命処置の訓練用資機材」が寄贈されました。

今後、この訓練用資機材を署内での訓練や研修で有効に活用し、地域医療の発展・向上に向け救急救命技術・知識の向上を図っていきます。